

学校評価 総括評価表

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の 評価・意見	次年度への課題と 今後の改善方策
<p>基本的生活習慣の確立を図り、望ましい校風を樹立する。 (挨拶の励行)</p>	<p>①挨拶を励行する。 ②出席率を向上させる。 ③「生活習慣改善プロジェクト(元気なあわっ子!応援事業)」の取組を充実させる。 ④個人面談週間を年間指導計画に位置付ける。 ⑤地域とともにある望ましい学校づくりを推進する。</p>	<p>評価指標 ①日常生活における挨拶を励行することで基本的生活習慣を確立する。 ②さわやかで活力あふれる富東生を目指し、出席率を80%以上とする。 ③生活習慣改善目標を自分で設定し、自己評価における目標達成率を55%以上とする。 ④個人面談を実施し、生徒とコミュニケーションを図ることにより、生活習慣、学習状況等の把握に努める。 ⑤ホームページの年間30回以上の更新に努め、学校への理解の推進を図る。</p> <p>活動計画 ①毎日の昇降口指導を実施し、生徒への声掛けを積極的に行う。 ②生活習慣改善プロジェクトを計画案に沿って実施する。 ③各学期当初に、個人面談週間を設定し実施する。 ④お知らせや行事等のタイムリーな情報を分かりやすく提供する。</p>	<p>評価指標の達成度 ①登校時の挨拶指導で、生徒から教員へ話しかける場面が多く見受けられた。 ②2学期末現在の出席率は82%である。4年生は73%と低いものの、それ以外の学年は80%を超えることができた。(去年同期81%) ③自己評価における目標達成率は61.5%であり、年度当初の目標を達成することができた。 ④各学期当初の個人面談によって、生徒の生活習慣や学習状況等を把握し、適切な指導を行った。 ⑤12月末現在、ホームページの更新は50回を超え、学校への理解の促進に努めた。</p>	<p>総合評価(評定) B</p> <p>(所見) 出席率は82%であった。生活習慣改善は目標を上回ることができた。登校時の挨拶指導や毎学期の個人面談等を通じて、生徒教師間で良好な関係が醸成され、「基本的生活習慣の確立及び望ましい校風の樹立」は、少しずつではあるが着実に進んでいる。</p>	<p>・日中働いている生徒や基本的生活習慣が確立していない生徒にとっては、生活のリズムを作ることが難しい。その状況下での出席率82%は、生徒の努力と先生方の懸命な指導の成果だと捉えている。来年度も引き続いて、生徒一人一人の心のケアや、居場所作りなどの丁寧な指導を期待する。</p>	<p>・本校のスローガンである「あいさつで心ふれあう富東」を定時制生徒全員が率先して体現することが、基本的生活習慣を確立するよう支援するため、引き続き評価指標に設定する。 ・出席率が、全学年で85%以上に近づけられるよう、生徒への励まし等の指導を継続し、家庭との一層の連携を図ることで、その指導を強化する。</p>
<p>職業と学業を両立させるたくましい精神力と豊かな人間性を育成する。</p>	<p>①たくましい精神力の育成に向け、健康相談・教育相談を充実させる。 ②関係諸機関との連携により、個々の生徒に応じた就労支援を行う。 ③高校生活の意義を伝えるとともに、人間性豊かな生徒を育成する。</p>	<p>評価指標 ①課題の把握により、教職員の共通理解を図り、支援方針を立て解決を目指す。 ②就労生徒へのサポートを行い、職業と学業の両立を図る力を育成する。 ③進路ホームルームや行事、日々の指導を通して、積極的に高校生活を過ごす姿勢を養う。</p> <p>活動計画 ①職員室隣室を必要に応じて使用し、スクールカウンセラーと協同して支援にあたる。 ②関係諸機関と連携し、就労に関する情報の収集を行い、個々の生徒に応じた就労相談・職場訪問や開拓等を推進する。 ③進路指導に関する行事や体験活動を充実することで、人間性を伸長する。</p>	<p>評価指標の達成度 ①12月末現在の生徒の「健康相談」の件数は、0件であったが、教職員間で共通理解を図り、日常的に支援している。(昨年1件) ②就労率は12月末現在で63%であった。仕事を通して働く意義を学べるよう、就労支援を継続していきたい。(昨年64%) ③日々の指導に加え、年間3回以上進路指導に関するホームルームや行事を行い、将来の自己実現のための高校生活の大切さを伝えた。</p>	<p>総合評価(評定) B</p> <p>(所見) 多様性に応じた新時代の学び充実支援事業に関する講演、就労意識を高めるHR活動、「自尊感情測定尺度アンケート」などを実施し、より効果を上げる指導を行った。</p>	<p>・コロナ禍により阿南市周辺の企業は苦しい状況が続いており、仕事が少ない。そのような中で就労率を昨年並みに維持していることは、十分評価に値する。一足早く社会に出ている生徒達には「働くことができる喜びや社会貢献の意義」を感じてほしい。学校からも、そのような呼びかけをしてほしい。</p>	<p>・以下の取組から得た結果をフィードバックし、指導に生かす。 ①カウンセリング的「健康相談」の継続。 ②多様性に応じた新時代の学び充実支援事業による講演 ③就労意識を高めるHR活動 ④ハローワークとの連携 ⑤「自尊感情測定尺度」アンケート及び分析</p>

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	価	学校関係者の 評価・意見	次年度への課題と 今後の改善方策
生徒一人一人の基礎学力の向上と進路指導の徹底を図る。	<p>①読書活動を通して、読む力、想像力や表現力を培う。</p> <p>②「漢字スキル学習」を継続的にを行い、漢字の基礎力を養うと共に、丁寧に字を書く素地を養う。</p> <p>③各種資格試験や検定試験にチャレンジさせ、知識・技能の向上を目指す。</p> <p>④能動的な学習態度を身につけさせるとともに、基礎学力の向上を図る。</p> <p>⑤自己理解及び社会理解を深め、卒業後の進路実現に向けて意欲的に行動する姿勢を養う。</p> <p>⑥アフターサポートを徹底し、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①授業等で年間25回以上学校図書館を利用する。</p> <p>②各自に応じたレベル別の課題に取り組み、40%以上の生徒が上のレベルに上がることを目指す。</p> <p>③各種資格試験や検定試験の受検者数6人以上を目指す。</p> <p>④始業前や放課後に自習が行える環境を整える。</p> <p>⑤卒業後の進路について自ら考え行動できるよう、キャリア教育を充実させる。</p> <p>⑥欠課補講及び欠点補講をそれぞれ年間2回実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①学校図書館利用数は25回であり、生徒の読書活動を推進できた。(昨年26回)</p> <p>②12月末現在、指標を上回る65%の生徒が上のレベルに到達することができた。(昨年59%)</p> <p>③各種試験の合格率は、12月末現在50%であった。スキルアップを目指し、学習意欲の向上に努めた。</p> <p>④始業前や放課後に自習ができるように教室等を開放したり、職員室で質問ができるように、教育環境を整備することができた。</p> <p>⑤日々の指導に加え、年間3回以上キャリア教育に関する行事やホームルームを行い、自己理解や社会参画への意識の育成に努めた。</p> <p>⑥欠課補講及び欠点補講をそれぞれ2回実施し、基礎学力の定着に努めた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>学校図書室の利用やクラス文庫常設で、読書の魅力を伝える取組がなされた。教員は電子黒板を各教科の授業で積極的に利用した。基礎学力の向上と定着のため、読書活動、「漢字スキル学習」、各種資格・検定試験、欠課補講など、年間を通じて様々な取組を実施した。これらの取組を通じて、基礎学力の向上と定着を図るとともに、自己肯定感の向上や、卒業後の進路への展望を持たせること等ができつつある。また、全商ビジネス文書実務検定3級に1名合格した。</p>	<p>・読書活動、「漢字スキル学習」、各種資格試験や検定試験等の受検・取得は、社会に出てから必要且つ役立つものなので、継続して指導をお願いしたい。また、「学校評価アンケート」を見ると、生徒達は、意識を高く持って積極的に取り組むことができています。</p> <p>・「漢字スキル学習」において、漢字の学習だけでなく、丁寧に文字を書く指導も継続してほしい。社会人になって、丁寧に文字を書くことは大切である。</p> <p>・生徒それぞれの進路に向けた各種資格試験や検定の受検に対する指導を、授業外で補習的に行うことは大変だろうが、生徒の進路保障のためにこれからも継続的にお願いしたい。</p>	<p>・本校生徒は、興味を持っている分野、教科・科目の得意不得意、就労に費やされる時間の長短などの様々な差異があり、一人一人と比較すると、大きな差異を持つ集団である。このため基礎学力についても大きな差異が認められる。基礎学力の向上と定着のために読書活動、「漢字スキル学習」、各種資格・検定試験等取り組んでいるが、その取組度合いも生徒によって大きく異なる。そこで、生徒が少数であることを生かし、個別最適化した支援を行い、それぞれの生徒を伸ばす。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①生徒に学校図書館を利用させ、様々な分野の読書を促し、読む力、想像力や表現力の育成を図る。</p> <p>②個々に応じた指導を心掛け、毎日の「漢字スキル学習」に取り組み、丁寧に字を書く練習を行う。</p> <p>③「漢字スキル学習」の活用や、各教科担当教員と協力し受検奨励及び対策を行う。</p> <p>④資格試験の勉強や予習・復習を意欲的に取り組めるようにプリント等を準備し、基礎学力の定着を図る。</p> <p>⑤進路指導ホームルーム、進路講演会、企業見学等を充実させる。</p> <p>⑥全教職員で学習支援に取り組み、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①国語や総合的な学習の時間等を利用して、読書活動を推進し、読む力、想像力や表現力の育成を図った。</p> <p>②生徒一人一人に応じた声掛けや採点時のメッセージ等、継続的に丁寧な指導を行った。</p> <p>③毎日の「漢字スキル学習」に加え、日本漢字能力検定やビジネス文書実務検定等の受検を奨励し、対策を指導した。</p> <p>④資格試験については、始業前に個別指導を行い、授業については、プリント配布に加え、今年度設置の電子黒板、生徒用タブレットを利用し、基礎学力の定着を図った。</p> <p>⑤進路指導ホームルームや多分野の業界から講師を招き講演会を開きキャリア教育の充実をはかった。</p> <p>⑥全教職員で連携して取り組み、生徒の基礎学力の定着に努めた。</p>			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の評価・意見	次年度への課題と今後の改善方策
家庭や地域社会との連携のもとに生徒指導の充実強化に努め、安全指導の徹底を図る。	①家庭・関係機関との連携を図る。 ②災害時の対応力を養う。 ③安全教育の啓発を励行する。 ④個に応じた生徒指導を徹底し、生徒一人ひとりの課題解決能力を高める。	評価指標 ①生徒の健全育成のため、家庭・学校・関係機関が連携を深める。 ②防災・避難訓練と心肺蘇生・AED講習を年間合計3回行う。 ③安全教育の授業を年間3回以上実施する。 ④生徒の情報共有のための職員打合せを毎日2回行い、生徒一人一人の課題に応じて、教員全員で粘り強く指導にあたる。	評価指標の達成度 ①家庭・学校・関係機関が連携を深め、充実した生徒指導を実施した。 ②防災・避難訓練と心肺蘇生・AED講習を年間合計3回実施した。 ③コロナの影響もあり外部講師による安全教育は年間1回の実施となった。(昨年2回) ④毎日2回の打合せにより、12月末現在の生徒の情報共有数はのべ74名であり、教職員間で共通理解を図った。(昨年84名)	総合評価(評定) B ----- (所見) 家庭との連絡を密にとり、生徒一人一人の課題に適切かつ詳細に対処することができた。 防災教育で避難訓練や災害時の対応、安全教育で普段の生活の行動等について振り返らせ、自ら安全な行動を取ることができるよう指導を行った。	・ 定時制の生徒は、家庭・学校に加え、就労先でもコロナ対応に応じなければならぬことから、その責任感やストレスは大変なものであったと伺った。家庭・学校・就労先との連携強化に引き続き努めてほしい。 ・ 防災に対する意識を上げる取組など、どんどん取り入れて、災害に対する備えや災害時の対応訓練を十分にしてほしい。
		活動計画 ①生徒の犯罪を未然に防止するため、祭礼時・各学期の街頭補導、PTA研修・家庭訪問などを実施し、生徒をサポートする。 ②防災・避難訓練を通じて、災害に対する事前準備と、災害発生時の正しい対応力を身に付けさせる。 ③年間計画に沿った安全教育を実施し、自主的な行動を身に付けさせる。 ④生徒の情報共有のための職員打合せを実施し、様々な情報を共有することで、個に応じたきめ細やかな指導を行う。	活動計画の実施状況 ①集会等を通じて規範意識を徐々に定着させた。今年度はコロナ対策により祭礼などが中止となる中で、関係機関との街頭指導・家庭訪問などを行い、生徒一人一人のサポートに努めた。 ②全教職員で協働体制を構築し、防災・避難訓練と心肺蘇生・AED講習を通じて、防災への意識向上を図った。 ③命や生活の大切さを考えさせ、自主的に安全な行動ができるよう指導した。 ④生徒の情報を教職員間で共有し、話し合いを重ね、きめ細かな指導に結び付けた。		
教育活動の全領域において人権教育の徹底を図る。	①いじめ等の問題行動の未然防止に努める。 ②人権講演会を充実させる。 ③自主活動への参加を促す。 ④職員研修を充実させる。 ⑤「人権新聞」を制作する。	評価指標 ①いじめ・悩みアンケートを年間3回、基本的生活習慣調査を年間1回、それぞれ実施し、更に面接を行うことで細かい対応をする。 ②人権講演会を年間2回実施する。 ③身元調査お断りワッペン運動に参加する。 ④人権講座等の研修会に全教職員が1回以上参加する。 ⑤人権委員会を中心に生徒からの感想をまとめ、年間3回発行する。	評価指標の達成度 ①当初の計画どおり各学期にいじめ・悩みアンケートを、1学期に基本的生活習慣調査を実施し、面接等で丁寧に取り組みをした。 ②外部講師による人権講演会を2回実施した。 ③新型コロナの影響でワッペン運動が中止になり、代わりに人権ホームルームで改めてワッペン運動について学習した。 ④計画どおりに全教職員が人権講座等の研修会に1回以上参加した。 ⑤新型コロナの影響で行事が減ったため新聞発行を2回に減らした	総合評価(評定) B ----- (所見) いじめ・悩みアンケートを定期的に実施し、更に面接で丁寧な聞き取りを行うことで、生徒の状況把握及びフォローをする重要性は高い。 講演者の心情に寄り添い、それぞれの生徒が人権問題に関して考えることができていた。	・ 昨年度に引き続き、自尊感情を測定するアンケート実施し、その結果をフィードバックした指導を行ったことを伺った。自尊感情を高めることで、自分自身を認め、自信を持った生徒を育成してほしい。その積み重ねによって、悩みやストレスの低減、いじめ防止、人権意識の向上等に、相乗的に作用することを期待する。 ・ 「さわやかで活力あふれる富東」の本校スローガンを体現できるように、いじめ・悩みアンケート結果や日頃の観察から、小さな芽も見逃さないきめ細やかな対応ができるよう、全教職員が取り組む。 ・ 人権講演会や人権HRを通じて、社会で差別解消に向けた取組を実践できる人材を育成する。
		活動計画 ①各種アンケートを実施し、生徒の状況把握に努める。 ②生徒の身近な内容を取り上げる。 ③生徒の実態に応じて呼びかける。 ④研修受講後も意見交換をきめ細かにやり、「人権の視点」を日常的に持つことを相互確認する。 ⑤人権ホームルームや人権講演会の感想等をまとめる。	活動計画の実施状況 ①把握した生徒の状況については教職員間で共通理解を図り、解決に向けて取り組んだ。 ②「いじめ、仲間づくり」「同和問題・識字学級」をテーマに人権講演会を実施した。 ③1年から4年の全学年で研修HRを実施した。 ④研修受講後のアンケートまとめにより、教職員間で話し合い、情報の共有を図った。 ⑤人権HR、人権講演会後の感想等のアンケートを基に、人権新聞としてまとめた。		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の評価・意見	次年度への課題と今後の改善方策
生徒の個性と自主性を開発伸長させ、有為な社会人を育成する。	①地域の清掃ボランティア活動への参加を促す。 ②計画的な「総合的な学習(探究)の時間」の実施に努め、個性と自主性の開発伸張を図る。 ③個性発揮の機会として、定通連の美術作品展や球技大会への参加を奨励する。 ④活躍の場を提供できる教育活動を展開し、校外行事への参加率を高める。 ⑤将来、社会人として必要とされるマナーを身に付けさせる。	評価指標 ①清掃ボランティア活動を年間1回実施する。 ②「総合的な学習(探究)の時間」の適切な学習評価を実施するため、年間学習計画を作成する。 ③定通連球技大会への参加を15%人以上、美術作品展への出品数を20以上にする。 ④様々な校外行事への参加率を55%以上とする。 ⑤日々の指導を通じて、挨拶、話し方、聴き方、周囲への配慮等、社会人としてのマナーを養成する。	評価指標の達成度 ①11月に清掃ボランティア活動を実施し、地域の清掃活動に取り組んだ。 ②年度当初に、「総合的な学習の時間」の年間指導計画を作成し、同時間を充実させ、各種検定の受検等につなげた。 ③定通連球技大会は選手のみ参加となった。美術作品展は作品作り行事に行けなかったこともあり、出品数は26、入賞数は1であった。 ④遠足への参加率は40%であった。自然文化体験活動は実施しなかった。 ⑤生徒一人ひとりへの声掛けやホームルームでの指導を継続的に行うことで、少しずつではあるが各自が他者への接し方を身に付けた。	総合評価(評定) B ----- (所見) コロナ禍において、実施方法を変更するなどして実施可能な方法を模索し、行事を実施することができた。厳しい家庭環境等で社会体験等が乏しい生徒にとって、様々な体験的行事を開催することは、有意義であると捉えている。今年度は、遠足として、太龍寺で研修した。又、生徒生活体験発表大会にも参加し、奨励賞を受賞した。	・定通連球技大会は2年ぶりに実施されたと伺ったが、せっかくなので、参加率を上げる方策を考えてほしい。スポーツをしたり、応援したりすることの大切さを学んでほしい。 ・清掃ボランティア活動では阿南駅を清掃し、職員の方にも大変喜ばれたと伺った。社会貢献の体験や各催し物へ参加することで、奉仕の精神や自主性を高め、社会人としてのマナーも身につけさせてほしい。	・学校スローガンである「よごすまい我らが母校富東」の精神が生徒間で浸透するように、来年度も引き続き清掃ボランティア活動を実施する。 ・種々の活動を通して達成感や喜びを味わい、知的好奇心を高めることは、他のことにも積極的になり、自己肯定感を高めるなどの相乗効果が期待できる。次年度も発展的に取り組みたい。 ・様々な校外行事への参加率を上げるため、一人ひとりへの積極的な声掛けを次年度も継続する。美術作品展でもより多くの作品出展を目指す。
		活動計画 ①地域の清掃活動へ参加することで地域社会に貢献し、社会への主体性と奉仕の精神を養う。 ②生徒の個性と自主性の開発伸張を図るため、それぞれの興味・関心、能力、適正等を考慮する。 ③美術作品作りや球技大会の練習等について、各教科の教員にも協力を得る。 ④生徒にとって有意義な経験ができる企画立案をする。 ⑤社会人としてのマナーを養成するために、日々の声掛けとともに、各種行事などでの礼儀作法について指導していく。	活動計画の実施状況 ①校舎周辺や地域の清掃活動に取り組み、社会参加への主体性と奉仕の精神を養った。 ②生徒の興味・関心等に基づいて、各種検定の受検などを促し実現させた。 ③校内フォトコンテストは実施することができた。作品展には家庭科教員の協力を得て手芸作品を出品することができた。 ④今年度は感染症対策を講じて、可能な限り実施ができた。 ⑤日常生活を通して、社会性の向上を図るとともに、社会人としての心構えを身に付けさせた。			
教職員の資質向上と、教育条件の整備充実を図るとともに、教職員の働き方改革を推進する。	①自己の教育課題の解決のために、様々な研修を受講し、各自のスキルや意欲の向上を図る。 ②教員の働き方改革を推進する。	評価指標 ①教員研修を様々な形態で20回以上実施することにより研究と修養に努め、教員の資質と専門性の向上を図る。 ②定時出勤定時退勤ができるよう、予防的指導の徹底を図る。	評価指標の達成度 ①校内コンプライアンス研修を1/12現在で21回実施した。また、Web会議も含め、校外での様々な機会を利用して、研修に参加し、教員としての資質・能力や専門性の向上に努めることができた。 ②生徒指導に関する超過勤務は最小限に留めることができた。	総合評価(評定) B ----- (所見) コロナ対策を取りながら、職員自身の日常の行動、生徒の学校内外の生活指導等、今年度の難しい状況を職員一丸となって対処することができた。	・コロナ感染予防等に伴う緊張と責任に伴うストレスは大変大きかったと推測される。教職員全員が、安全安心を担保する学校作りに参加するという自覚と責任を再確認することにより、この困難を乗り切って欲しい。	・次年度も様々な機会を捉え、校内コンプライアンス研修を実施する。 ・学校行事や業務内容の点検を全員で実施し、勤務の効率を向上させ、働き方改革の推進につなげる。
		活動計画 ①全教員が各研修を積極的に受講し、実践力を高める。 ②始業時と終業時の毎日2回の打合せで、情報共有や連絡の徹底を図り、些細なことから対処する。	活動計画の実施状況 ①教員としての資質向上を目指し、全教員が意欲的に研修を受講し実践力を高めた。 ②毎日2回と必要に応じた臨時的打合せで、生徒の情報共有を行い、一人ひとりの生徒の課題に対応したきめ細かな指導を行うことができた。			